

- 本年7月から8月にかけて、G4南エリアA群から、測定・確認用設備B群への移送を実施しております。
- 本年9月に採取した測定・確認用設備B群の分析については、外部機関の分析も含めて、国の放出基準を満足していることを確認しています。
- 当社はこれまで、トリチウムの希釈が適切に行われていることを確認する目的として、ALPS処理水放出期間中において、毎日、海水配管から試料採取を行いトリチウム濃度を測定してまいりました。その結果、分析値が計算上の濃度と同程度であること、分析値が1,500ベクレル/ℓを下回っていることを確認しています。
- また、発電所から3km以内の10地点および発電所正面の10km四方内の4地点においては、海水のトリチウム濃度の分析結果を迅速に得ることを目的に、検出限界値を10ベクレル/ℓ程度に上げた分析を実施し、トリチウム濃度が放出停止判断レベル（700ベクレル/ℓ※1または30ベクレル/ℓ※2）および調査レベル（350ベクレル/ℓ※1または20ベクレル/ℓ※2）以下であることを確認しています（5スライド参照）。

※1 発電所から3km以内の10地点 ※2 発電所正面の10km四方内の4地点

<10月16日までにお知らせ済み>

- 本日（10月17日）、午前11時43分、海洋放出を開始しました。
- ALPS処理水は、トリチウム濃度の薄いものから放出しています。これまで希釈前トリチウム濃度13万～28万ベクレル/ℓのALPS処理水を放出しており、今回は希釈前トリチウム濃度が31万ベクレル/ℓとなります。想定される希釈後のトリチウム濃度は約420ベクレル/ℓで、国の規制基準6万ベクレル/ℓ、WHO飲料水基準1万ベクレル/ℓ、政府方針で定められた1,500ベクレル/ℓに比べて十分に低い値となります。
- また、迅速に結果を得る測定では、発電所から3km以内の10地点で過去の分析値を超える、数十ベクレル/ℓとなる分析結果も想定されますが、放出停止判断レベル（700ベクレル/ℓ）および調査レベル（350ベクレル/ℓ）以下であることを確認してまいります。
- 引き続き、ALPS処理水の安全な海洋放出を安定的に実施できるよう緊張感を持って取り組んでまいります。

【参考】2024年度ALPS処理水放出計画（1/2）

- 2024年1月時点における2024年度の放出計画は以下の通り、年間放出回数7回、年間放出水量約54,600m³、年間トリチウム放出量約14兆ベクレルを計画しております。
- 2024年度に日々発生するALPS処理水については、測定・確認用設備への移送等で空となったタンクに受け入れていきます（解体予定のJ9エリア等を除く）。

管理番号※3		移送量※4	二次処理 トリチウム濃度 トリチウム総量	放出時期
24-1-5	K3エリアA/B群（測定・確認用設備 C群に移送） J4エリアL群（測定・確認用設備 C群に移送）	: 約4,510m ³ : 約3,240m ³	: 無 : 18万～20万 ^{ベクレル/リットル} ※5 : 約1.5兆 ^{ベクレル}	4～5月
24-2-6	J4エリアL群（測定・確認用設備 A群に移送） J9エリアA/B群（測定・確認用設備 A群に移送）	: 約2,030m ³ : 約5,710m ³	: 無 : 17万～19万 ^{ベクレル/リットル} ※5 : 約1.4兆 ^{ベクレル}	5～6月
24-3-7	J9エリアA/B群（測定・確認用設備 B群に移送） K1エリアC/D群（測定・確認用設備 B群に移送）	: 約1,800m ³ : 約5,980m ³	: 無 : 16万～18万 ^{ベクレル/リットル} ※5 : 約1.3兆 ^{ベクレル}	6～7月
24-4-8	K1エリアC/D群（測定・確認用設備 C群に移送） G4南エリアC群（測定・確認用設備 C群に移送）	: 約4,730m ³ : 約3,060m ³	: 無 : 16万～31万 ^{ベクレル/リットル} ※5 : 約1.7兆 ^{ベクレル}	7～8月

[C群関連設備点検](#)

次スライドへ

※3 管理番号は年度-年度毎の放出回数-通算放出回数の順で数を並べたもの。「24-1-5」は24年度第1回放出かつ通算第5回放出を表す

※4 下線部は実績値を示す

※5 タンク群平均、2024年4月1日時点までの減衰を考慮した評価値

【参考】2024年度ALPS処理水放出計画（2/2）

前スライドより

管理番号※3		移送量※4		放出時期
24-5-9	G4南エリアC群（測定・確認用設備 A群に移送）	：約6,780m ³ ：約1,000m ³	二次処理：無 トリチウム濃度：30万～35万ベクレル/リットル ※5 トリチウム総量：約2.4兆ベクレル	8～9月
	G4南エリアA群（測定・確認用設備 A群に移送）			
A群関連設備点検				
24-6-10	G4南エリアA群（測定・確認用設備 B群に移送）	：約7,770m ³	二次処理：無 トリチウム濃度：34万～35万ベクレル/リットル ※5 トリチウム総量：約2.7兆ベクレル	9～10月
点検停止（測定・確認用設備 B群タンクの本格点検含む）				
24-7-11	G4南エリアA群（測定・確認用設備 C群に移送）	：約800m ³ ：約7,000m ³	二次処理：無 トリチウム濃度：34万～40万ベクレル/リットル ※5 トリチウム総量：約3.0兆ベクレル	2～3月
	G4南エリアB群（測定・確認用設備 C群に移送）			

➡ 2024年度放出トリチウム総量：約14兆ベクレル

※3 管理番号は年度-年度毎の放出回数-通算放出回数の順で数を並べたもの。「24-1-5」は24年度第1回放出かつ通算第5回放出を表す

※4 下線部は実績値を示す

※5 タンク群平均、2024年4月1日時点までの減衰を考慮した評価値

測定・確認用タンク群：K4-B群

処理水の性状	測定・評価対象の30核種の放射性物質の濃度（トリチウムを除く）	国の基準(告示濃度比総和1未満)を満たす (告示濃度比総和：0.083) (詳細、二次元コード1ページ)	
	トリチウム濃度	31万ベクレル/ℓ (詳細、二次元コード2ページ)	
	自主的に有意に存在していないことを確認している38核種	全ての核種で有意な存在なし (詳細、二次元コード3ページ)	
	水質検査の状況	国、県の基準を満たす (詳細、二次元コード4ページ)	
	水温	外気温とほぼ同じ。約 740 倍（設計上の希釈倍率）に希釈後は、希釈用海水と同じ温度（発電所の温排水とは異なる）。	
処理水放出予定量	約7,800m ³		
処理水流量	約460m ³ /日 (設計最大流量500m ³ /日を超えないように運用上定めたもの)		
希釈用海水流量	約340,000m ³ /日 (放水トンネル内を人が歩く程度のスピード（約1m/秒）)		
希釈後の想定トリチウム濃度	約420ベクレル/ℓ		
放出期間	2024年10月17日～2024年11月4日 予定		

- 当社は、2023年8月の放出開始以降、下図に示す枠内の14地点で、迅速に海水中のトリチウム濃度を確認するためのモニタリング（検出限界値10ベクレル/ℓ程度）を実施しております。なお、「放出停止判断レベル（図中記載）」を超えた場合には、海洋への放出を停止します。

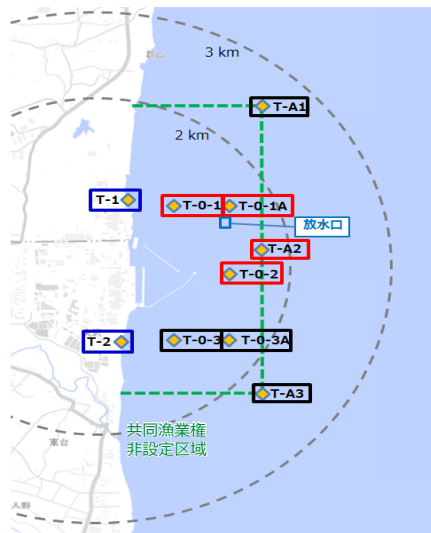


図1 試料採取地点 発電所から3km以内（放水口付近）

 : 迅速に結果を得るモニタリング対象地点（10地点）
指標（放出停止判断レベル） 700ベクレル/ℓ

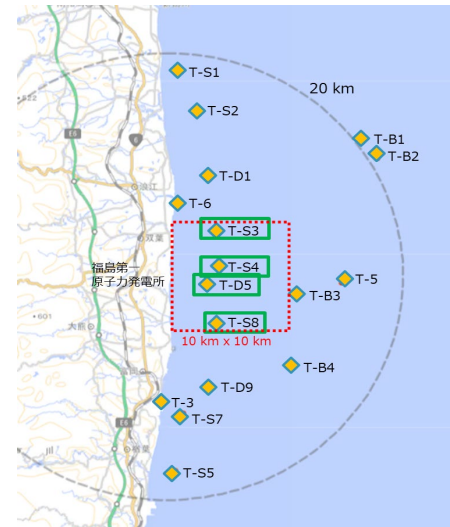


図2 試料採取地点 発電所正面の10km四方内

 : 迅速に結果を得るモニタリング対象地点（4地点）
指標（放出停止判断レベル） 30ベクレル/ℓ

	【図1】発電所から3km以内（放水口付近）		【図2】発電所正面の10km四方内 4地点
	放水口周辺4地点 	その他6地点 	
放出期間中および 放出終了日から1週間	毎日※6	週2回※7	T-D5:週1回 T-S3,T-S4,T-S8 : 月1回
放出停止期間中 (放出終了日から1週間を除く)	週1回※7	月1回※7	

※6 放出期間中に荒天のため連続して2日間欠測し、翌日（3日目）も欠測が予測される場合には、3日目はT-1、T-2の迅速に結果を得る測定を行う

※7 2023年8月の放出開始以降、毎日モニタリングを実施してきましたが、放出中の実績等を踏まえ、2023年12月26日からモニタリング計画を変更した
[\(2023年12月25日公表\)](#)